



「第38回定期中央本部大会」開催 安全を基礎に組織の魅力を高め、全員参加で未来を創ろう!



羽野中央執行委員長の力強い団結ガンバロー

JR西労組の 2026年度がスタート!

JR西労組中央本部は、7月9日(木)から7月10日(金)、松下IMPホールを会場として「第38回定期中央本部大会」を開催し、西日本各地から代議員や傍聴など、約550名が出席した。今大会は、初の2地本準備体制を採用し、和歌山地本と西日本JRバス地本の2地本が準備委員会を設置し、大会運営を行った。



大阪地方本部を代表し
発言をする寺井書記長

大会は、議長団に玉置代議員(和歌山地方本部)と清水代議員(西日本JRバス地方本部)を選出し、2日間に渡りスムーズな進行が行われた。冒頭、中央本部を代表し、羽野執行委員長から、●安全●男女参画組織強化●業務課題●産業政策への課題●中央本部大会小委員会での発言について挨拶があった。

議事では、執行部から経過報告と運動方針(案)が提起されたあと、小委員会を開催した。組織財政課題を中心とする第一小委員会では、岡本委員(京都地方本部)を小委員長に選出し39名(大阪地方本部から9名の委員が発言)。

安全、業務、ワーキングインベーションの課題を中心とする第二小委員会では、小森委員(福知山地方本部)を小委員長に選出し、45名(大阪地方本部から10名の委員から課題解決

に向けた熱い発言があった。

2日目の全体質疑では、各地方本部や新幹線協議会、青年女性委員会の代議員15名から

安全の確立、春闘労働協約、組織業務、人育成、政治などについて、本部方針(案)に肉付けされるかたちで様々な課題に対して活発な発言がなされた。

大阪地方本部を代表し寺井書記長からは、●安全●新入社員の組織化行動と共済加入について●26春闘のお礼と27春闘について●賃金昇進制度の見直しに向けたPTについて発言を行った。(発言要旨は別欄)

その後、中央本部川端書記長から総括答弁があり、提案さ

れた運動方針が満場一致で確認された。

そして、高杉青年女性委員長が大会宣言を高らかに読み上げ、最後は、羽野執行委員長の力強い「団結ガンバロー」で大会を締め括った。

最後に来年の定期中央本部大会は、京都地方本部が準備地本となる事が確認された。

中央本部大会 寺井書記長発言(要旨)

安全

福知山線列車事故を引き起こした当該地本として、より高い感度で安全意識の醸成は、一定の水準を保つことが出来ています。しかし、残念ながら一歩間違えば重大労災に繋がりがねない事象が後を絶ちません。現在JR西労組が取り組んでいる「ABC運動」については、組合員の認知度が低いとのことで、今大会において「標語」「ポスター」「ロゴ」を募集し表彰もされました。大阪地本としても決められたことはしっかり守り、自分の命、お客様の命を守り、ABC運動をしっかり周知、展開し安全性向上の取り組みを引き続き進めて参りたいと思います。

事故を忘れない、語り継ぐ取り組みについても、青年女性委員会と連携し継続して取り組んで参りたいと思います。また、今年度で17回目を迎える地本青年女性委員会主催のユースプロジェクトでは、特別講話で事故当時京橋電車区にて運転士をされていた方と、大阪保線区で保守業務をされていた方に、事故当時の状況がどのようなものであったかをお話していただき、グループディスカッションも行い、事故を経験した組合員から事故後入社の組合員へ福知山線列車事故を語り継ぐ取り組みを行っています。

このような取り組みは、継続して行うことが重要だと思ひます。事故後入社の組合員が7割を超えるようになった現在、我々もしっかり青年女性委員会をサポートしながら引き続き取り組んで参ります。

新入社員の組織化行動と共済加入について

分会・支部からJR西労組運動を献身的に取り組んでいただき組織率は96%を越えました。今年度の新採加入の取り組みは各会場に分かれて、地本・支部もフォローに入りながら、分会役員を中心に加入説明をおこない、新規採用者155名の全員加入をすることができました。また、社会人採用者についても分会役員に積極的に加入行動を行っていただき、我々の仲間となり活躍されています。組合加入までは問題なく進むのですが、総合共済や家族支援協の加入については年々厳しい状況が続いています。

DVDの活用、パワーポイントを作成して、分かりやすく説明しているのですが、やはり人間関係が出来ていないのに、いくら説明してもなかなか首を縦に振ってもらえないと感じます。総合共済については、組合加入用紙と同じ用紙にレ点でチェックをするだけなので難易度は低めですが、家族支援共済は用紙も大きく記入する箇所も多く、研修終了後の新入組合員にとってはものすごく疲れることだと思います。募集時期を増やしていただくなど福祉対策部も頑張っていたいて

いますが、更なる加入促進のために加入用紙の簡素化と、申込用紙の年間通して使用できるタイプへの変更をお願いします。

コロナ禍以降家族支援共済を解約する方が多くなってきたおり、分会役員も必死に説得をしていますが、困った時はお互い助け合うという相互扶助を理解していただけない方が増えているように感じます。スケールメリットを活かせないようなパーセンテージまで急激に下がっていくと、掛け金の上昇やさらには制度そのものの存続が危ぶまれる事態が想定されます。

昨年の8月に大阪地本の書記長に就任してから約1年で本人死亡が10件程度ありましたが、家族支援共済に加入されていた方はそのうち5名でした。ガイダンスに行くところ家族の方は「ありがとうございます」と本当に泣いて喜んでいただいています。この共済は無くすわけにはいかないので、大阪地本としても加入促進に向けて全力で取り組んで参ります。

26春闘のお礼と27春闘について

26春闘において大阪地本の長年の課題であった日根野支所新在家派出所のエリア手当について改善が図られたことについてこの場を借りて御礼申し上げます。天王寺支部や日根野支所分会の方々からは「本当にありがとうございました」との言葉を頂きました。27春闘についても、多くは言いませんが更なる賃金改善が図られることをお願いしておきたいと思ひます。

賃金昇進制度の見直しに向けたPTについて

昨年の定期大会以降「賃金昇進制度の見直しに向けたPT」がコロナ禍を経て再開しました。「賃金昇進制度」や「定年延長」などについて議論が行っていますが、平成5年入社いわゆるJR採用1期生が今年で52歳を迎え、現在の賃金制度に移行していない方については、現状のままであると基本給92%になってしまいます。分会大会などに行くところ「どうにかしてほしい」との声を多く聞きます。また、「ML層等に対する再雇用制度の取扱いの一部改正」の提案が先日されました。

「2035年度からは、現時点では期間の再度延長や新設等は考えていない」とのことですが、特に新卒で早い時期にML層に昇職したJR世代についてどのようなビジョンを持っているのでしょうか。いずれにせよ、一つの転換点となる提案だと考えます。定年延長含め賃金昇進制度の見直しの必要性、方向性について本部の見解をお示しください。

最後に来年4月には統一地方選挙も控えています。推薦候補者全員の必勝に向け取り組むことをお誓い申し上げ大阪地本代表の発言とさせていただきます。共に頑張りましょう。

◆奥野委員
◆米春執行予定の奈良県議会選挙

第一小委員会 【組織・財政】

中央本部大会 第一・第二小委員会 大阪地方本部からの発言項目

※第二小委員会は二面掲載

 村山委員	 村山委員	 奥野委員
 鳴野委員	 中村委員	 江上委員
 安田委員	 中島委員	 竿本委員

◆分会青年女性委員会のあり方
◆組織オルグの御礼
◆家族支援共済の脱退増加
◆選挙支援の在り方
◆選挙支援の在り方
◆選挙支援の在り方

◆レクリエーション
◆開催月の変更
◆ホームページに掲載されている家族支援共済の動画修正更新
◆新規採用者加入行動での各種共済加入用紙の簡素化
◆交通政策をすすめる会の更なる加入拡大
◆綱引き大会での体重に関する取り扱い